

付加価値を高めた駐輪場で まちづくりの一端を担う

株式会社リード
代表取締役社長

岩崎 元治



【プロフィール】

岩崎元治(いわさき もとはる)
1980年埼玉県生まれ。2003年芝浦工業大学卒業、同年、富士重工業株式会社(現:株式会社SUBARU)入社。2008年まで自動車の樹脂成形や樹脂塗装について従事する。その後、株式会社リード入社。2014年代表取締役社長に就任、現在に至る。趣味はバスケットボール、ゴルフ。仕事のモットーは「お客様のためになるかどうかを第一に考える」



本誌編集長 山本 稔



本誌発行人 森井 博
(リモート参加)

去る5月28日、「第2次自転車活用推進計画」が閣議決定されたのはご存じの方も多いだろう。2018年6月の「自転車活用推進計画」から引き続き、日本が自転車先進国に仲間入りするための取り組みが、国の旗振りのもとで進んでいくことになる。第2次では「自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成」「サイクリススポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現」「サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現」「自転車事故のない安全で安心な社会の実現」という4つの目標が掲げられた。いずれも自転車駐車場業界にとっては非常に喜ばしいことだ。

この閣議決定から約3ヵ月遡った2月半ば、業界にはもうひとつ歓迎すべきニュースが届いていた。本誌3月号で既報したとおり、自転車駐車場工業会の認定サイクルラックを数多くラインナップする日鉄日新ビジネスサービス株式会社が、駐輪部門を3月1日付けで株式会社リード(本社：埼玉県熊谷市)に事業譲渡したのだ。今回のゲストは、同社代表取締役社長・岩崎元治氏。第2次自転車活用推進計画を追い風として、新規事業の駐輪ビジネスをどのように発展させていくのか。お話を伺った。

なお、今回森井は、緊急事態宣言下のためリモート参加。本誌編集長・山本が熊谷市のリード本社を訪ね、三者によ

る座談会形式(司会進行：編集部)で構成する。

(収録：2021年6月15日)

中島飛行機～富士重工業で培った 創業者の技術力が根底に

—— まずは御社の歴史を教えてくださいませんか。

岩崎 私の祖父の岩崎亥之吉(いのきち)が、1947年に現在当社がある埼玉県熊谷市(注：当時は大里郡妻沼(めぬま)町)に設立した、合資会社岩崎板金製作所がルーツです。祖父が、ここから車で30分程の距離にある群馬県太田市の中島飛行機株式会社(注：戦前の日本の航空機・航空エンジンメーカー。後の富士重工業株式会社。現株式会社SUBARU)で技術者として働いており、そこで培った板金加工技術と人脈を活かして創業しました。1962年に現在の株式会社リードに商号を変更。1970年には、板金加工に加えて、樹脂工場を竣工。樹脂成形加工を始めました。現在は650～3000tの樹脂成形機が稼働していき、従来の板金、塗装を合わせて、さまざまな自動車用部品、具体的には、樹脂バンパーやピラー、ハンドブレーキレバーなどを製造しています。古くは「スバル360」のドア、バンパーなどの製造も手掛けておりました。

山本 主軸は創業時からの自動車部品製造ですが、それとは全く異なる領域のプロダクトも製造されているとうかがっています。

岩崎 はい、LB事業部で進めている業務です。板金加工技術を活かしたもので、電子部品のラックやケースなどを製造しています。

森井 御社の製品ラインナップにある、警察向けのシステムラックもそれに含まれるのでしょうか。どのような商品か教えてください。

岩崎 これは警察の情報通信部に納入している、通信機材を収納するシステムラックです。

全国の情報通信部に採用されており、種類も多種多様となります。

森井 (製品を見せてもらって)なるほど、つまり筐体ですね。実にさまざまなサイズのシステムラック、ケースをつくられていますね。素晴らしい。

岩崎 ありがとうございます。

駐輪事業譲渡を受けて 一気通貫のモノづくり体制に

—— この3月1日に駐輪事業を譲渡された日鉄日新ビジネスサービスさんとの協働の経緯を教えてください。

岩崎 私の先代がいろいろな自動車部



垂直昇降式、スライド式、二段式、電磁ロック式など多様なラインナップの自転車駐車場工業会の認定サイクルラック製造がリードに承継された

品メーカーさんのお付き合いがある中で、日鉄日新ビジネスサービスさん(注：当時は新和企業株式会社)を紹介していただいたのが発端と聞いています。そこで当社の板金加工の技術を活かして、1999年から協働を開始しました。今から22年前のことになります。

森井 当時はおそらく、現在本誌で連載をされている片岡大造さんが担当役員をされていた頃だったかもしれませんね。

岩崎 はい、私はお電話で話をただけで直接の面識はないのですが。

森井 改めて日鉄日新ビジネスサービスさんからの駐輪事業譲渡をお受けになった理由を聞かせてください。

岩崎 20年以上駐輪ラックの製造に携わらせていただいた歴史があり、その縁もあってお声がけをいただいて。やはりこれは当社が引き受けさせていただこうと決断致しました。また、20年以上の時間が経過し、駐輪ラック製造は弊社事業の柱のひとつにもなっていましたので、それを失いたくないという思いもありました。譲渡に伴い、日鉄日新ビジネスサービスの駐輪事業に従事していた5名が当社へ転籍しており、リードの社員の知見や技術も加えて、弊社ならではのモノづくり体制を構築しています。メー

カーとしては、下請ではなく、すべてを自社の意志で、商品企画、開発、製造、販売、メンテナンスまで一気通貫でモノづくりができるのは、やはりひとつの理想です。近いうちに、今まで以上に当社の重要な事業に成長すると期待をしています。

—— 譲渡を受けた理由には、自転車の駐輪ラックという製品そのものに将来性を感じたということもあるのでしょうか。

岩崎 もちろんそうです。以前から言われていた環境保護や健康維持、交通混雑の緩和の面、自転車シェアリング活用、MaaSのラストワンマイルを担う移動手段…等々、近年、社会における自転車の重要性、存在感は高まっており、それに伴って自転車を駐める需要も上昇すると想定していました。さらにはコロナ禍において、電車やバスによる密を避けられる安全安心な乗り物である点でも注目されており、その点でもビジネスチャンスが拡大する可能性があるのでは、とも捉えています。

山本 確かにコロナ禍を経て、ウーバーイーツのようなデリバリー需要の増大による自転車活用の機会増加もありますし、その点でも自転車への注目は高まっていますよね。しかも、先日、5月末には第2次自転車活用推進計画が閣議決定して

おり、引き続き、自転車普及の土壌は継続していきます。これに前後して、自転車活用推進本部によって新たに3ヵ所のナショナルサイクルート——北海道の「トカプチ400」、千葉県の銚子市から和歌山市まで1487kmに及ぶ「太平洋岸自転車道」、そして「富山湾岸サイクリングコース」が整備されました。日本のあちこちで、快適な自転車走行環境が広がっているということは、同時に駐輪する場所もセットになって必要とされるわけですから、期待ができると思います。ナショナルルートは、非常に広範な地域に設置されるため、その土地土地の歴史や景勝、風物を活かした「ご当地駐輪ラック」なども良いかもしれません。

森井 確かにそれはおもしろいね。自転車駐輪の業界から大局的に見ても、今回の事業譲渡を受けていただいたことは素晴らしい判断だったと感謝しています。前身の新和企業から日鉄日新ビジネスサービスさんへ受け継がれてきた数多くの自転車駐車場工業会の認定サイクルラックが、未来へ承継されていくわけですからね。御社には、これまでの駐輪ラックのクオリティに加えて、街並みに融合し、美観の形成に寄与するようなデザイン性にもより一層配慮して



① 2013年導入の電動大型樹脂成形機(3,000t)
② 油圧式大型樹脂成形機(3,000t)。こちらも2013年に導入された
③ 樹脂成形機で製造された樹脂バンパー。約5kgと軽量

いただければと思っています。つまりは、私の持論である「綺麗」「快適」「機能的」の「3K」にも配慮をいただきたい、ということなのです。

板金加工技術を活用できる？ 「電動キックボード用ラック」

岩崎 「街並みに融合する」という点では、残念ながら昨年撤退したのですが、当社が長年手掛けてきた「街路灯事業」で培った技術、ノウハウが活かせると考えています。この事業は、商店街や駅前、公園などまちなかに設置される街路灯などの照明機器の設計・開発・製造でした。日本各地の自治体や商工会、観光地さんなどと協議を重ね、ご要望に沿いつつ、その場所の美観、ひいては価値向上に寄与する街路灯をつくってきたという自負があります。この文化を駐輪ラック製造にも活かしていくつもりです。

山本 先ほど御社の駐車場に車を停める際、さまざまなデザインの街路灯が敷地を囲んでいるのを見かけました。あの

ようなラインナップを製造されていたんですね。確かに多様なバリエーションがありました。あの造形は確かに駐輪ラックにも反映できそうですね。

岩崎 ありがとうございます。お客様の声を直接活かすことができた街路灯事業が、今度は駐輪ラックという製品に姿を変えたわけです。ご要望、環境に即してカスタマイズをするなど柔軟に対応していくつもりです。

山本 そうですね。街の名所になるような、誰もが驚くインパクトがありながら、それでいて悪目立ちしないようなデザインをお願いします(笑)。それと、駐輪ラックに加えて、最近メディアでもよく取り上げられている電動キックボード用のラック製造も検討してはどうでしょうか。キックボードは既存の駐輪ラックには入れられなさそうなので、例えば先ほど警察用の通信システムを入れるラックを紹介いただきましたが、同様に御社オリジナルのシステムラック、ケース製造の技術を活かしてキックボード専用のケースをつくらうか。

岩崎 確かにラック、ケースはさまざまな種類を作ってきましたので、我々が対応しやすい分野かもしれませんね。特に、これから普及が期待できそうな、電動キックボードは検討の価値がありそうですね。

技術基準認定を受けるための 試験設備を保有する強み

—— 街路灯事業以外で、駐輪ラック製造に御社ならではの付加価値を与えたとしたら、どんなものがありますか。

岩崎 当社の主幹事業である自動車部品製造の根幹を支えてきた、品質管理の技術や、信頼性の高い実証実験を行える環境を自社で保有していることだと考えています。自動車部品はコスト、品質などの管理が極めて厳しいため、出荷前の

性能試験が不可欠です。日鉄日新ビジネスサービスさんと協働している時から、当社の自動車部品用の試験機器、設備は、自転車駐輪場工業会の認定を受けるための駐輪ラック試験にも使ってきた経緯がありました。工業会の認定率も比較的高かったのではないかと自負しています。

山本 自転車活用推進計画には「サイクルラックに関する技術基準の見直し」も盛り込まれています。具体的には、多様な自転車の駐輪ニーズに対応するため、業界団体によるサイクルラックに関する技術基準の見直しを進めるとともに、地方公共団体等に対して周知を図る、というものです。この点において、御社は既に自転車駐輪場工業会の会員企業になっているわけですし、非常に心強いと感じています。私が聞く限りでは、技術基準の認定を受けるための試験費用のコストが嵩むことを理由に、つい試験を受けることに及び腰になるメーカーさんもあるということです。会員企業向けの値段設定で御社の試験設備を活用できるようにしていただけますとありがたいです。

岩崎 そうですね。せっかく会員企業の一員に加えさせていただきまし、どんどん活用してもらえればと思います。

サイクルラックに加えて 駐輪場全体の美しさにも配慮を

—— 既に話題として登場しておりますが、第2次自転車活用推進計画が閣議決定されたことは、自転車駐輪場の業界として、さらなる追い風になることは間違いありません。岩崎社長はどのように受け止めていますか。

岩崎 自転車普及がより一層加速することは、もちろん当社にとってもプラスに作用すると思っています。当社がある熊谷市でも自転車走行用のブルーラインや、矢羽根が描かれた自転車レーンを見ることが増えてきました。近い将来、我々



自社オリジナルで製造している電子機器関連ラック・ケース類。JIS/EIA規格に準拠しており、構造・サイズなどバリエーション豊富だ。多様なオプションも用意されており、きめ細かくカスタマイズできる

が考えなければならない案件がどんどん増えてきそうです。

山本 そうですね。御社の駐輪ラックがより一層必要とされる環境が拡大すれば良いと思います。先ほども少し触れましたが、自転車駐車場工業会では、この活用計画を契機にして、技術基準が担保する安全性をさらに訴求していくことが必要だと考えています。場合によっては各地の自治体担当者を行脚して、認知度を高めるくらいの取り組みが必要かもしれません。

森井 2018年の「第1次」計画から今年の「第2次」へと自転車活用推進計画が継続されたのは業界にとっても非常に歓迎すべきことです。第1次活用計画によって、日本各地の自治体で自転車走行空間の整備や安全安心のための取り組みが進んできている実感はありますが、それでも先進国に比べれば日本のレベルはまだです。今後も地道に継続していかなければなりません。

山本 そうですよ。

森井 そして、自転車が走りやすい環境がつくれるということは、当然、自転

車を停める環境も整える必要があります。その際、先にも申し上げましたが、綺麗な駐輪場でなければならないと思います。**岩崎** はい。

森井 そこで御社にお願いしたいのが、自転車を停める板金の駐輪ラックの美しさもさることながら、駐輪場そのものの美しさにも配慮してほしい、ということ。例えば、以前視察した北欧で見て感動したのですが、駐輪場全体がガラスブロックで囲われていて、第一印象は建築作品のような様相だったんですね。日本ではまだそこまでの美的センスを感じさせる駐輪場は見たことがありませんが、あれに近い感覚の建築デザインは、東京の丸の内や有楽町などにある地下鉄の入口に見ることができます。

岩崎 それは興味がありますね。機会があれば私も見ておきたいと思います。どんなものなんですか。

森井 一般的な地下鉄の入口は、コンクリートの箱が地上にポコッと出て、その中の階段を下っていくという味気ないものですが、丸の内や有楽町の地下鉄入口は、綺麗なガラスキャノピー

に覆われていて、美術館に足を踏み入れるようなワクワク感を伴うんですよ。ぜひ岩崎社長にもご覧いただきたいです。ともあれ今後は、駐輪ラック製造をベースに、駐輪場を覆う囲いや意匠にも目を配り、設計事務所さんなどと組んで駐輪ビジネスを推し進めていくことをお願いしたいと思います。先ほど多様なタイプのカンパニーをご紹介いただきましたが、マテリアルは違って、あの技術があるなら実現できるのでは、と思うのですが。

岩崎 確かに、我々にいただくシステムラック、ケース製造の案件では、よくお客様のニーズに合わせてカスタマイズも行っていきます。例えば過去にも、照明を仕込む、太陽光パネルを取り付けるといったアレンジをしたことはありました。

森井 そうですか。ではいずれ対応いただけそうですね。

岩崎 はい。かつての駐輪場は、1980年代前半に全国98万台超にまで膨れ上がった放置自転車を、何とか収容する目的を果たすことが第一義になっていた

と思います。その後、自治体をはじめとする関係者の地道な努力で放置自転車台数は激減しました。それを受けて駐輪場の役割は電磁ロックや、交通系電子カードでの精算など、防犯、安全安心、お客様の利便性をいかに上げるか、といった方向にシフトしたと思います。

山本 そのとおりですね。

岩崎 私は、さらにそうした時代が近い将来に変わり、駐輪場がまちづくりの一角を担う、重要な役割を果たすようになるかと考えていました。しかし昨年からのコロナ禍によ



東京・有楽町の東京国際フォーラムにある地下鉄入口。シンボリックなガラス棟のイメージに即したガラスのキャノピーが個性的。こうした発想が駐輪場にも導入されてほしい



本誌編集長・山本も交え、3者座談会のスタイルで実施。収録した会議室はリード製品のシステムラックや自動車部品も展示されており、ショールームの役割も果たしていた



て、今日、森井会長が使われているようなWeb会議、テレワークなどが一気に普及したのと同様、駐輪場がまちづくりに不可欠である時代も急激に近づいたと考えています。

山本 その考えも、日鉄日新ビジネスサービスさんの事業譲渡をお受けした背景にあるのでしょうか。

岩崎 はい。したがって森井会長のご提案どおり、駐輪ラックだけでなく、その周囲の意匠、建築デザインにもこだわることも必要だと思います。

森井 分かりました、期待しております。本日は御社のモノづくり、とりわけ、まちづくりの一環としての駐輪場という考えに触れ、非常に心強く感じました。

コロナ禍が収束した暁には、私達と一緒に北欧のデザイン性に優れた駐輪場を視察に行きましょう。

岩崎 そうですね。現状は北埼玉と東京の往復のみですが、渡航制限が解除されることになれば、ぜひお誘いください。

森井 承知しました。本日はお時間いただき誠にありがとうございました。 **PP**

【パーキングプレス 発行人】 **森井 博** のプロフィール

- 一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
- 一般社団法人 自転車駐車場工業会 会長
- 一般社団法人 日本シェアサイクル協会 専務理事
- 東京京橋八重洲ライオンズクラブ 会員
- 六本木男声合唱団 団員
- サイカパーキング(株)、日本駐車場救急サービス(株)、モリスコーポレーション(株) 夫々会長

【略歴】 1938年(昭和13年)宮崎県延岡市生れ82歳。
 1957年(昭和32年)石川県立金沢泉丘高校卒
 1961年(昭和36年)東京商船大学(現東京海洋大学)卒
 1961~1979年 石川島播磨重工業(現:IHI)
 1979~1991年 東芝
 1991年~ 現職

【趣味】 現在:ゴルフ・車・自転車・合唱
 過去:水泳・野球・陸上競技・テニス

【遍歴】 ゴルフ:毎週1回ホームコースでラウンド、週1~2回練習場通い。エージシュートを毎年1回が目標。
 車:毎日通勤で運転。中古車3台を大切に乗り廻す。
 自転車:数台保有するも年齢を考え余り乗らない。
 歌:六本木男声合唱団で毎週1回練習に励む。年1~2回サントリールホール等で公演。2018年6月にはNY・カーネギーホールでも公演。
 仕事:健康のため平日は毎日9:00~17:00出勤。
 (コロナ禍の期間は在宅テレワーク+週3日出勤)
 水泳:小学校に入る前から泳ぎは得意。
 野球:中学生までは本気でプロになるつもりであった。
 陸上競技:高校時代 短距離、やり投げ、インターハイ2回出場。
 テニス:元デ杯選手のコーチでかなりの腕前(?)になるも、45歳時アキレス腱断裂でウインブルドンを断念。

過去の対談ゲストの方は、WEBでご紹介しています

パーキングプレス 対談 で検索

または <http://www.parkingpress.jp/taidan/> にアクセス

対談記事のバックナンバーもご覧いただけます。

